

相模灘における海象等に関する研究 (中間報告)

Studies on the Oceanographic Conditions etc. in the Sea of Sagami (Interim Report)

ま え が き

臨海工業地帯の造成、大規模港湾の建設、沿岸増養殖の発展に伴い、沿岸災害の様相も複雑多岐にわたってきたため、各般にわたり有効な対策を確立するためには、相互に密接な関係を有する各種分野の研究を総合化して推進することの必要性が痛感されていた。

このため、国立防災科学技術センターでは、相模灘をモデル地区として選定し、平塚沖に建設した波浪等観測塔を中心として、各分野の沿岸防災に関する研究を総合研究の体制のもとに推進して来た。

この総合研究は、「相模灘における海象等に関する研究」と呼ばれ、昭和39年度より3か年計画で始められた。

研究題目と担当機関は次のとおりである。

- (1) 強風の測定に関する研究 運輸省気象研究所
- (2) 海洋構造物に及ぼす波力に関する研究 運輸省気象研究所
- (3) 漂砂測定に関する研究 海上保安庁水路部
- (4) 波浪のエネルギースペクトルに関する研究 運輸省港湾技術研究所
- (5) 波浪のエネルギースペクトルに関する研究 国立防災科学技術センター
- (6) 砕波と溯上波に関する研究 農林省農業土木試験場
- (7) 総合的推進 国立防災科学技術センター

昭和39年度、40年度では、各関係機関で、それぞれの観測計器の設計、製作を終り、室内実験及び野外実験を行った。

この速報は、両年度間に行った、試作計器の概要と実験結果を主な対象としているものであって、計器を使用した、実際の観測結果の解析は、昭和41年の本報告に譲ることとした。

なお、この研究の推進には、国立防災科学技術センター第一研究部、沿岸防災研究室があたった。